



2025.01

発行／公益財団法人徳島県国際交流協会

謹賀新年

年頭のご挨拶



公益財団法人徳島県国際交流協会
理事長 三好 誠治



新年明けましておめでとうございます。
皆様方におかれましては健やかに新しい年をお迎えになられたことと思います。

昨年は、能登半島地震の発生をスタートに、8月には日向灘を震源とする地震を受け、次の巨大地震への注意を呼びかけるために気象庁が初めて「南海トラフ地震臨時情報」を発表するなど、これまでに増して地震への備えを実感した年でした。

在留外国人に目を転じますと、令和5年10月末時点で日本で働く外国人労働者数が「200万人」を、そして昨年6月末時点で日本に在留する外国人数が「350万人」を超えたとの発表がありました。

このうち徳島県に在留する外国人数は「8,321人」で、国籍別ではベトナムの「2,288人」が最多で中国、インドネシア、フィリピン、韓国の順、在留資格別では技能実習の「2,892人」が最多で永住者、特定技能、留学、家族滞在の順でした。

また、6月には、直面する人口減少と労働力不足という課題に取り組むため、外国人労働者の技能実習制度にかわり、新たに「育成就労制度」を設けることを柱とした「改正 入国管理法」が成立しました。

こうした中、当協会では、在住外国人に防災の重要性を認識してもらう「防災スタディツアー」・「防災出前講座」や、対面とオンラインによる「日本語教室」の通年開催、毎夏の行事として、7月には「外国人による日本語弁論大会」、8月には在住外国人と県民による「阿波おどり交流」など様々な事業を展開して参りました。

併せて、外国人相談窓口で応じております「多言語での生活相談」では、外国人労働者の増加を背景に、労働・雇用相談が増加しました。

今年は、「EXPO2025」の開催など、技術革新や社会の動きが加速すると言われており、外国人を取り巻く環境も「刻一刻と変化」することが予想されますが、職員一丸となって地域の国際化の旗振り役としてその存在意義を一層高め、県・市町村、民間団体の皆様としっかり連携し尽力して参る所存です。

結びに、本年が皆様方にとりまして、幸多き年であることをご祈念申し上げますとともに、引き続き、当協会へのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

日本語支援ボランティア養成講座

令和6年9月30日から11月28日までの期間、原則毎週月曜日および木曜日の19時から20時半まで、オンラインにて日本語支援ボランティア養成講座を開催しました。本講座は、日本語支援者の裾野を広げ、外国人住民への理解者を増やすことを目的に、平成12年から毎年開講しています。今年度はオンライン開催としたことで、県内全域の高校生からシニア世代まで、幅広い年齢層の37人が受講しました。

講座の冒頭3回目までは、①日本そして徳島の外国人住民の増加の現状やその背景にあるもの、②彼らが生活の中で抱える様々な問題、そして③「やさしい日本語」についての講座と日本語学習者とのやさしい日本語での対話体験を実施しました。

その後、日本語の文法や支援の仕方については当協会日本語教室の山田多佳子講師が、対話活動については鳥取大学国際交流センター教授の御館久里恵先生が、そしてオンラインによる日本語支援については、国際交流基金日本語国際センター専任講師の羽吹幸先生にご講義いただきました。

最終日には、地域日本語教室の3人の代表の方々に、学習者との向き合い方や、日本語教室が心の拠り所として果たす役割についてお話いただきました。その後、受講者はグループに分かれ、意見交換を行いました。

11月10日には、阿波国際交流協会の日本語教室にて対面での実地研修を実施しました。インドネシアや中国からの約20人の日本語学習者とともに、「おしゃべりカフェ」と題した対話活動を通じて、日本語支援の実践を体験しました。

さらに、地域産業や社会を支える地元の外国人住民の皆さんと交流し、彼らの生活や働き方について理解を深める貴重な時間となりました。今後、受講者の皆さんが、外国人住民の皆さんのよき理解者になっていただけることと思います。

受講者の皆さんの声

- ♪ 徳島在住の外国人の方たちの状況や私たちが持つ課題について知ることができた。
- ♪ 職場にタイの人とミャンマーの人がいて知り合いにインドネシアの人がいるのでこれから生かしていきたいと思います。
- ♪ 日本語の文法や教え方を学び、改めて外国の方への説明方法について考えることが出来ました。また、実習を通じて、コミュニケーションのやり方やお互いの文化を理解することの喜びも感じました。そして、外国人の方が徳島で果たしている大きな役割や重要性についても理解が深まりました。
- ♪ 外国(系)住民についての理解が深まりました。わが町に技能実習の方々がいらっしゃるので、精神面でも応援したいです。



対面での講座の様子



実地研修の様子

日本語や徳島の文化にふれるバスの旅

令和6年11月24日（日）、当協会による「日本語や徳島の文化にふれるバスの旅」を開催し、日本語支援ボランティアをはじめ、中国、スリランカ、フランス、バルバドス、メキシコなど11か国から31人の方々にご参加いただきました。

最初に訪れた藍住町歴史館「藍の館」では、藍染め体験を行い、世界に一つだけのオリジナルハンカチを思い思いに染め上げました。その後、阿波十郎兵衛屋敷にて平成座の人形浄瑠璃「傾城阿波の鳴門」の公演を鑑賞しました。難しい日本語の演目でしたが、太夫の迫力ある語りや人形の動き、表情を通して浄瑠璃の魅力を存分に楽しみました。さらに、公演後には人形を実際に操る貴重な体験をさせていただきました。

晩秋の穏やかな一日、徳島の伝統文化に触れながら日本語を学ぶ、楽しく有意義な時間となりました。

参加者の皆さんの声

- ✿ いろんな人に出会ってよかった。みんなと一緒に活動ができて嬉しい限りだ。
- ✿ とても楽しかったです。人形の仕掛けが特に面白かったです。
- ✿ めっちゃ面白かった！！まだこんな活動あったら、ぜひ参加したい！
- ✿ とても楽しくて、面白い体験はありがとうございました！！
- ✿ I enjoyed both Aizome Indigo dyeing and Ningyo Joruri Puppet theatre very much. I was able to learn Japanese. It made me more interested in learning about Japanese culture and history as well. (訳：藍染めと人形浄瑠璃の両方をとっても楽しみました。日本語も勉強できました。日本の文化や歴史についてももっと興味を持つようになりました。)
- ✿ It was so much fun. I learned more about Tokushima's culture. I will definitely share my experience with my family and friends back home. (訳：とても楽しかったです。徳島の文化についてもっと学びました。この体験を故郷の家族や友人に必ず伝えたいと思います。)(原文ママ)



ONE WORLD子ども支援事業

お仕事体験イベント

「おごと探検隊キャリアチャレンジ 未来の種を育てよう」に、TOPIAとJICA徳島デスクが参加します！（主催：徳島市・名東郡PTA連合会）

日 程：令和7年2月1日（土）13:00～15:00（予定）

場 所：アスティとくしま（徳島市山城町東浜傍示1番地1）

内 容：・TOPIA：徳島での観光や生活で困っている外国人への相談の仕事体験。アメリカ、中国、ドイツ、韓国、インドなど、色んな国の人と実際に話してみよう！
・JICA徳島：JICA海外協力隊プチ体験をしよう。いろんな国の言葉を勉強して、海外での活動にチャレンジ！

対 象：徳島市と名東郡の学校に通う小中学生

申し込み：令和6年12月末に学校から配布されるチラシのQRコードから

世界とつながる
お仕事、体験して
みませんか？



令和6年度大規模災害時外国人支援対応訓練

令和6年12月8日（日）、藍住町役場会議室で「令和6年度 大規模災害時外国人支援対応訓練」を実施しました。徳島県関係者、地域国際交流協会・日本語教室の関係者他、地域自主防災会、地域外国人など、総勢40人が参加しました。

訓練前半には、講師の菊池 哲佳氏（桜美林大学 准教授）より、防災に関するクイズを交えながら参加者間で交流しました。さらに、菊池講師考案の「多文化防災ワークショップ“NICE”」を用い、日本人住民と外国人住民とが対話しながら、共に地域防災について考えを深めました。

訓練後半は、①受付、②掲示板、③食料配布、④相談の班に別れ、避難所に外国人が来たと想定し訓練を行いました。どうすれば外国人も安心して避難所に入って過ごせるか、外国人と日本人が協働できることは何かなど、外国人参加者の声を聞きながら多言語表示や運営の工夫を考えました。また大規模災害時に設置される「外国人相談センター」の図上訓練も行い、外国人被災者に支援が届くための県一市町村の情報共有・連絡調整について吟味しました。

日本人参加者からは、「町の防災訓練の際、多くの事業所を周り、外国人の参加を促したい。」「支援者は限られた人数であることから、外国人の方にも共助に加わっていただくことが必要。」「避難所設営訓練の中に外国人対応を含めて、行う必要がある事がわかった。」という声がありました。

外国人参加者からは、「何かあったとき日本語が分からない外国人がいたら手伝いたい」、「またこんな交流に参加したい」という声がありました。

なお今回の訓練は、一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR）の「地域国際化推進アドバイザー派遣」事業を活用しました。TOPIAは今後もこの事業を活用し、徳島県での災害時における、外国系の方の支援対応力の向上と、彼らと協働した防災への取組などを展開していきたいと思えます。



防災センター・スタディ・ツアー

県内在住の外国人の皆様には地震や災害について学び、日常の防災意識を高めていただくことを目的に、令和6年9月8日（日）に「防災センター・スタディ・ツアー」を開催しました。当日は、5か国から21人の方々にご参加いただきました。

ツアーでは、徳島県制作の映像「津波から命を守る」を視聴し、地震による津波の発生メカニズムや対応方法を学びました。その後、消火訓練や煙体験、暴風体験など、実際の災害を想定したさまざまな体験を通して、防災への理解を深めていただきました。

今回の学びを日々の防災準備に役立て、いつ起こるか分からない災害に備えていただければ幸いです。



防災出前講座

「南海トラフの巨大地震」の発生が危惧される今、災害弱者となりやすい在住外国人への防災知識の提供や支援体制の整備が急務となっています。

当協会では、在住外国人の方を対象に、地震や津波から命を守るための基本的な情報を説明する**「防災出前講座」**を実施しています。

外国人の方が所属されている団体や関係者の方で、出前講座の開催をご希望の方は、当協会までお気軽にご連絡ください。



八朔の収穫作業のお手伝いをしました

徳島県が実施する「とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業」の一環として、ふるさと団体「しでの会」からの依頼を受け、当協会から中国、ベトナム、カンボジア、マダガスカル出身の参加者16人が八朔の収穫作業を応援しました。

当日は「しでの会」の皆様から収穫のコツや注意点について丁寧な説明を受け、2班に分かれて作業を開始しました。途中、風が強まり小雨が降る場面もありましたが、参加者たちは手を止めることなく農家の方々の力になれるよう懸命に取り組みました。

昼食時には、他の団体の参加者と交流しながら、「しでの会」の皆様が振る舞ってくださった味噌汁や温かいお茶で体を温め、午後の作業も力を合わせて頑張ることができました。

約4時間にわたる収穫作業は、参加者にとって新鮮で貴重な体験となり、「自分の国では農作業をしたことがなく、貴重な経験だった」、「地域のいろんな人とたくさんおしゃべりをして楽しかった」といった感想が寄せられました。

今後も「応援し隊」として、地域の皆様のお手伝いをしながら交流を深め、活動を続けていきたいと思っております。



ホームステイ・ホームビジット事業

当協会では、このたび徳島県地域留学生交流推進協議会との共催により、徳島県内の留学生を対象に、ホームステイ・ホームビジット（HS・HV）を実施いたしました。このプログラムは、留学生の皆様が地域のホストファミリーとの温かい交流を通じて、日本の生活や文化に触れる貴重な機会を提供することを目的としています。

今回のHS・HVには、留学生9人が参加しました。実施期間は令和6年11月上旬から12月上旬にかけて行い、ホストファミリーの皆様のご協力のもと、心温まる交流が繰り広げられました。留学生の皆様は、日本語を使いながらホストファミリーとの会話を楽しんだり、季節を感じる日本の文化体験を通じて、日本への理解をさらに深めていただけたことと思います。

このプログラムを通じて、留学生とホストファミリー双方が心豊かな時間を共有し、新しい絆を築くことができました。私たちは、こうした交流が留学生にとって日本語や日本文化へのさらなる興味や関心につながると確信しています。また、ホストファミリーにとっても、多文化交流の素晴らしい機会となったのではないのでしょうか。

ホストファミリーからの感想

- 🍷 非常に楽しく勉強になりました。また、お会いしようと思っております。
- 🍷 お互いの文化はもちろん、様々な話をして、関係が深まりました。一番大盛り上がりしたのは、マリオカート、マリオパーティでした！
- 🍷 それぞれの国の様子が分かって興味深かった。留学生は日本文化に興味があるようで、その面でも話がたくさんできました。
- 🍷 和やかに話ができたと、お好み焼き料理や和菓子などを楽しんでくれたことが良かったです。もっと体験をと思いましたが、リラックスしてくれたのはよかったのかな。
- 🍷 日本語が完璧で楽でした。阿波弁を勉強したいというので実家の高齢の母親のところにみかん狩り体験して昔の阿波弁を聞いていました。
- 🍷 お互いの食生活を共有出来た事。一緒に歌を歌ったり踊ったりしたこと。本国にいる家族とお話できたこと。

留学生からの感想

- 🍷 レストランでもホストファミリーの家でも、日本食をととても楽しんだ。私の国と日本の文化的な共通点についてもたくさん話しました。とても楽しかった。
- 🍷 ホストファミリーはとても親切で、ホームビジットが本当に心地よく楽しいものになりました。神社参拝、地元のレストラン、茶道、そして自宅での日本食を通して、日本の自然と文化を最大限に体験することができました。
- 🍷 私は料理が大好きなので、母国の家族に作ってあげたいと思う新しいレシピも学びました。
- 🍷 日本のお寺に参拝に行きましたが、そこで、初詣、参拝についての文化や歴史などを知ることができました。
- 🍷 ホームステイの家族と一緒に晩ご飯を食べて、日本の手巻き寿司を初めて食べました。また、日本と台湾の文化について色々話し、お互いの違いを知ることができて、とても楽しかったです。ホームステイの家族たちは非常に親切で優しく夢のような素敵な時間を過ごしました。

皆さんの感想（一部抜粋）



JICA徳島デスクのページ

JICA（独立行政法人 国際協力機構）は、日本のODA（政府開発援助）の実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。「信頼で 世界をつなぐ(Leading the world with trust)」というビジョンを掲げ、多様な援助手法を組み合わせ、最適な解決策を提供することで、開発途上国が抱える課題解決を支援していきます。

松茂町×ガーナ 万博国際交流事業の出前講座を実施しました。

○11月2日(日)マツシゲートで実施された学園祭で、松茂×ガーナの出前講座を実施しました。

JICA海外協力隊としてガーナに派遣された経験を持つ協力隊OGと県内に住むガーナ人のご家族にお越しいただき、松茂町民との国際交流を実施しました。自己紹介の後、ガーナの場所や日本との関わり、ガーナの踊りなどをご紹介いただき、最後はガーナクイズで皆で盛り上がりました。ガーナでは、生まれた日の「曜日」がその人のニックネームになるそうです。ご参加された方々から、「ガーナのクイズが楽しかった」「ガーナの様子を知ることができてよかった」「好きな食べ物はお味噌汁！と聞いて驚いた」などのお声を頂きました。また、講演の前後の時間には、アフリカ布を使ったワークショップを開催し、大人も子供も真剣に取り組む姿がありました。参加者や関係者の方々がガーナのこと、そして徳島県に住む外国人の方々に目を向けるきっかけになっていれば幸いです。貴重な機会をありがとうございました。



(ガーナ紹介の様子)

過去の出前講座や応募方法についての詳細は、JICA四国HPをご覧ください。

【お問い合わせ先】独立行政法人国際協力機構(JICA)四国センター
〒760-0028 香川県高松市鍛冶屋町3番地 香川三友ビル1階
電話番号:087-821-8824 ファックス:087-822-8870 メール:jicaskic@jica.go.jp

JICA四国 出前講座



あすたむらんど徳島で異文化交流イベントを実施しました。

○10月20日(日)在住外国人や外国で活動していた方々とイベントを実施しました！

マリ、ギニアビサウ出身のJICA研修員2名、徳島ローターアクトクラブのベトナム、中国、韓国の学生3名、あすたむらんどスタッフ、JICA海外協力隊経験者をスタッフとして招きイベントを実施しました。当日は沢山の幼児～中学生ぐらいの子ども達にお越しいただき、各ブースで外国の遊び体験をしていただきました。遊びに参加するには、スタッフがつけているバッチの国の挨拶をしてから！というミッションを必死にクリアしようとする姿が印象的でした！子供達だけでなく、保護者の方々や当日参加していたスタッフにとっても異文化を体験できた1日となりました。また、このような異文化交流、国際交流イベントを実施したいと考えていますので是非JICA四国Facebookをご確認いただければと思います。(只今多文化運動会を検討中です。)最新情報はFacebookを通じてご案内させていただきます。また皆様とお会いできることを楽しみにしています。



(研修員と競争だ！)

イベント予定や過去のイベントについての詳細は、JICA四国Facebookをご覧ください。

【お問い合わせ先】独立行政法人国際協力機構(JICA)四国センター
〒760-0028 香川県高松市鍛冶屋町3番地 香川三友ビル1階
電話番号:087-821-8824 ファックス:087-822-8870 メール:jicaskic@jica.go.jp

JICA四国 Facebook



JICA徳島デスクでは、いつでも皆さまからのお問い合わせをお待ちしております。

デスク: 徳島県国際交流協会(TOPIA)内/徳島県国際協力推進員 服部

TEL: 088-656-3303 Email: jicadpd-desk-tokushimaken@jica.go.jp

JICA四国HP: <https://www.jica.go.jp/shikoku/index.htm>

JICA海外協力隊の
個別相談受付中



「とくしま外国人支援ボランティア会員」

＊募 集 中＊

徳島県には約95か国、8,321人（県人口の82人に1人）の外国人の方が住んでいます。加速する少子高齢化と労働者の不足により、今後ますますその数は増えていくことが予想されます。彼らが、この徳島で国籍などに関係なく生き生きと生活することができるよう、ボランティアになって支援していただきながら一緒に国際理解や多文化共生を推進していきませんか？

詳しくはとくしま国際戦略センターホームページの「ボランティア募集」をご覧ください。

URL <https://volunteer.topia.ne.jp/recruit/page01.html>

TOPIA 賛助会員募集中

当協会では、当協会の趣旨と活動内容にご賛同いただける賛助会員を募集しています。賛助会員は協会の情報を優先して受けることができ、賛助団体は会議室の予約を3か月前から申し込むことができます。詳細は当協会まで。資料をお送り致します。

年会費	個人会員	一口	3,000円/年度
	団体会員	一口	10,000円/年度

国際理解教育を応援します

国際理解支援講師派遣

人とふれあい 人とつながり

多文化理解&多文化共生！

徳島県の国際化の進展に伴い、多文化共生に向けた県民の意識醸成や国際理解教育の推進を目的として当協会では学校や市町村の機関が行う国際交流活動などに講師（県内在住外国人等）を派遣します。

国際理解支援講師募集中

～母国と日本の交流の架け橋となりませんか～

県内の学校や市町村の機関が行う国際交流のイベント等で、国際理解支援講師として日本語で母国の文化紹介などをしてくださる県内在住外国人の方を募集しています。



徳島県外国人総合相談窓口

徳島県で生活する外国人のみなさんにとって、暮らしやすい地域社会であることを目指し、外国人総合相談窓口を開設しています。当協会では英語、中国語、ベトナム語のほか、たくさんの言語で対応ができますので、仕事、医療、子育てなど生活でお困りのことがございましたら、当協会に來所いただくか、お電話下さい。

開所時間：10：00～18：00（年末年始を除く）

場 所：とくしま国際戦略センター

（公益財団法人徳島県国際交流協会）

多言語対応：

(1) 多言語(英語・中国語・ベトナム語)相談員の配置

(2) 電話通訳システムの導入

（通訳事業者、行政機関も交えて4者間で相談できる）

【対応言語】21言語

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤インドネシア語 ⑥タイ語 ⑦マレー語
- ⑧タガログ語 ⑨ネパール語 ⑩ミャンマー語
- ⑪クメール語 ⑫モンゴル語 ⑬ポルトガル語
- ⑭スペイン語 ⑮フランス語 ⑯ドイツ語
- ⑰イタリア語 ⑱ロシア語 ⑲シンハラ語
- ⑳ベンガル語 ㉑ヒンディー語

(3) 映像通訳システムの導入

（相談者・相談員と通訳者との対面相談に対応）

【対応言語】8言語

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤タイ語 ⑥ポルトガル語 ⑦スペイン語
- ⑧ロシア語

(4) 対面式通訳機(ポケットーク)の導入(74か国語)

(5) 多言語翻訳アプリ(ボイストラ)の導入

相談専用TEL：088-656-3312、088-656-3313

相 談 料：無料（ただし、電話代は自己負担となります）

問い合わせ：公益財団法人徳島県国際交流協会
〒770-0831

徳島市寺島本町西1-61 クレメントプラザ6F

開所時間：月曜日～日曜日 10：00～18：00

閉所日：年末年始

TEL: 088-656-3303 FAX: 088-652-0616

URL: <http://www.topia.ne.jp>